

天才軍師・張良の靈言（2013年1月20日靈示） 担当:石田昭 2016年4月9日

- 1 総裁先生：張良は考えの深い人、項羽軍を疲労させて勝利した。当会も張良的な名参謀が必要な次期に来た。張良は自分の手柄で出世するという心が無く、無私、無欲であった。
- 2 参謀の条件：参謀はスタッフのこと。智慧を示し、トップに正しい判断をさせる役割。トップは決断を要す。「勇気」「実行力」、「人物眼」も必要。参謀は全体を見て判断する。
- 3 劉邦の最大の危機は「鴻門の会」、張良の機転、樊噲の宴席乱入で劉邦は逃げ帰れた。
- 4 「必勝の方法」とは？：自分より強い敵とは正面で戦わず、逃げる、和睦、戦機を待つ。「分」を知る事が大切、戦線を拡大しない。負け戦は総裁先生の張良的な戦略・方便なのか？
- 5 日本の外交は「情報収集力」が弱い。自分は百人の情報部隊を持っていた、昔のお庭番。戦略性のない日本政府では、中国の攻めに対応できない。日本は自虐的で、反論が下手。先の戦争中も、宋美齡がアメリカで「日本が如何に酷いか」を講演、米国民を信じさせた。
- 6 最初から戦略・戦術は持てない。一定の成功体験が必要、「最終目標」はその後のこと。
- 7 明治維新だって、将軍が大阪から逃げ帰ったあたりで幕府を倒す戦略・戦術が立ってきた。
- 8 戦略はトップの力量と関係する。水戸学を学んだ将軍が負け戦を選ぶのでは問題外。「幕府がこの国を仕切るんだ」と押し切ることもできたが、学者将軍では不可能だった。
- 9 幸福の科学もここまできたら、戦略が要る。どうやって敵を破るのか。今は、目標が複数（大学など）あって苦しい。政治が最終仕上げになるが、政治で成功すれば国教化できる。しかしマスコミはそれ（総裁=最高権力者）を恐れている。立党は手遅れを避けるためか？
- 10 マスコミは支持率を気にして動く政権に慣れている。気にしない当会の動きに動揺している。「幸福の科学はどこまで行くか」を見極めようとしている。一方、創価学会は弾圧を避けるために「天下取り」(総体革命)をあきらめて「与党に擦り寄る」道を選択した。
- 11 中国を危険視する当会をマスコミは無視したと思う。自民党内にも「完全な中国危険視はまずい」という人が居る。しかし、現実には「中国の拡張主義戦略」は理解を得てきて、国論となってきた。しばらくは長期戦略で、知力戦。自民党内の人材を枯渇させる戦略か？
- 12 宗教では天下取りが可能に見えたが、政治進出し、選挙で勝てないことで苦しんでいる。「外の人のほうが偉い？」と思い始め、敗走している状態。織田信長：実績でないと信用収縮
- 13 複数の仕事を片付けて、もっと政治の方に「全軍集結」しないと、勝てないと思う。今は基本的に「負けるのが仕事」だが、その空気を会全体に伝播しないようにする事が大切。
- 14 当会の「中国敵視キャンペーン」は敵を呼び込む危険性あり、という恐怖から、「ネオナチのようなレッテル貼り」で、追い込んでくる可能性あり。これが一番やりやすい戦略。
- 15 選挙をやり続ける条件は？教団の方が大きくなっていく（自動的な）システムが必要。それと、次の代の教祖を作っておくことが大切。総裁が2代目の教育を急いでいる理由。
- 16 政治は弾圧を受けやすいので、総がかり（全軍集結）でないと、全滅の可能性もある。今は戦力が分散している。弟子に「漢の三傑」のような人材が居ない。理事長も良く変わるし、それほどの人材が居ない。が、劉邦のように負け続けても最後に勝つ方法はある。
- 17 軍師も成熟するのに時間がかかる。何かをやって成功しないと人は認めない。幸福実現党の幹部ではまだ誰も成功していない。成功してないのに偉い人と言うのは良くない。
- 18 直前世は渋沢栄一、企業家なら国際舞台で活躍したいが、他の方面に出る可能性もある。
- 19 総裁先生：奇抜なアイデアで教団を発展させる人、3人の人材なら可能性ありかな。